

カネヨウ

# 湿度調整素材拡販へ

## 米・ココナ社と代理店契約

カネヨウはこのほど、米国ココナ社との間で調湿機能に優れた快適素材「37・5テクノロジ」（以下37・5）の販売代理店契約を締結した。製品納入を中心に寝装・インテリア分野から先行し、アパレル、ユニフォーム、スポーツ、雑貨、中東民族衣装向けなどに順次販路を広げていく。

37・5は、火山性鉱物とヤシの実を焼いたものという二つの天然由来成分を粉体（活性粒子）にし、ポリエステル長・短繊維やナイロン長繊維などに練り込んだもの。ココナ社の創業者が日



天然由来でありながら高い機能性を持つ

本の砂風呂をヒントに開発した機能素材で、最大の特徴は湿度コントロール。湿気を吸収して乾燥させ、逆に乾燥時には赤外線に作用して保温する。衣服内や寝装品の湿度をコントロールすることで快適さを保ち、ミクロの多孔を持つため臭いにも対応する。

湿度調整や湿度調整機能を持つ類似の素材は他にもあるが、そのほとんどはコーティングなどの後加工のため、繊維に練り込む手法をとる37・5は洗濯耐久性や風合い保持性にも優れる。

羽毛布団や枕、マットレスなどの寝装品から先行し、一般衣料、スポーツ、ユニフォームへと販

路を広げ、将来的には中東民族衣装向けでの採用も狙う。2017年10月に原料・テキスタイル事業と中東事業がカネヨウに譲受されるまで一体だったフォワード・アパレル・トレーディング（旧兼松繊維）の製品部門と連携した製品展開がメインとなるが、ココナ社が台湾や韓国、インドなどで選定する原糸メーカーや生地メーカーと連携して生地販売も行う。

素材開発はポリエステル長繊維が軸だが、同短繊維やナイロン長繊維でも試作を続けており、綿や麻、ウールなどの複合生地も既に数多く開発されている。

西野幸信社長は、現中計にも掲げる社内シナジの発揮という点でも37・5には期待したいとし、機能をうたえる商材として全社を挙げて拡販に臨む考えを強調する。中計の一方の柱である「グローバル化」の一環

として海外市場への展開も視野に入れる。

37・5は2000年に米国で設立されたココナ社が開発した素材で、欧米では寝装品・アパレル、スポーツなどで採用が進んでいる。日本では大手商社や繊維専門商社が代理店契約を結んで販売し、アパレル製品などで採用されてきたが、カネ

ヨウが昨年11月に寝装品に関する販売代理店契約を締結し、さらに今年2月にはアパレルやユニフォーム、雑貨などにその対象を広げる契約を結んだ。

カネヨウによると同素材は日本の寝装品市場で販路開拓が進んでいない。このため寝装・インテリア分野を主要販路

に持つカネヨウとの契約はスムーズに進んだという。

他にも日本の生地商社などが同素材を取り扱うが、カネヨウは「ココナ社によってサプライヤーや販売代理店はコントロールされている。チーム37・5」としてすみ分けも図りながら拡販に臨みたい」としている。